

平成25年度「基礎・基本」定着状況調査について

6月11日（火）に、公立中学校2年生を対象として、広島県内一斉に「基礎・基本」定着状況調査が行われました。内容は、国語・数学・理科・英語の4教科と、生活と学習に関する意識・実態の調査です。このほど、その調査結果が発表されましたので、国語・数学・理科・英語の4教科についてご報告いたします。

各教科の平均通過率（％）

	国語	数学	理科	英語	3教科合計
広島県	71.7	69.0	39.9	72.1	212.8
広島市	68.8	65.1	36.8	67.8	201.7
安佐北中学校	88.9	89.6	63.3	90.9	269.4

本校の結果分析と今後の取組

国語

【分析】

「話し手の意図を考えながら聞き取る」「小学校で履修する漢字を読んだり書いたりする」の定着状況について、本校生徒はほぼ100%に近い通過率を示しています。「聞くこと」については、話し合いという形の言語活動を意識的に多く設けているために、論点を整理しながら聞く能力が身につけていること、漢字については小テストを毎週実施し、漢字練習を自主的に日々継続する習慣がついていることの成果だと思われます。

一方、重点課題になるのは「書くこと」領域の「叙述の仕方の確認」です。この問題では、1文を2文に分け、接続詞と主語を補うことが求められていますが、主語を補う部分が低い通過率になっています。これは、「叙述の仕方」というよりも、「文の成分」の学習の定着が不十分なことが課題であると考えられます。

【今後の取組】

伝わりやすい文章を書くためには、主語をどの位置に持って行くか、主語と述語の対応は適切に行われているか等を意識することが大切だと考えます。今後は、特に説明的文章を読む際に、主語と述語の対応を意識させ、文の構造を正確にとらえて読んでいく機会を増やすこと、自分の書いた文章を推敲する上で、主語をはっきりさせる指導を行うことなどを心がけていきたいと思っております。

数 学

【分析】

「数と式」の領域の通過率が 95.0%で、基本的な計算の能力は身につけてきていると思われます。関係を文字式で表す問題でやや通過率がやや低いですが、県の通過率と比べると本校の通過率は2倍となっています。

「図形」領域の通過率は 91.5%で、回転体に関する問題で、他の問題と比べるとやや通過率の低い問題も見られました。実物を使って、立体的な見方を養っていかねなければならないと思われます。

「関数」領域の通過率は 86.5%で、基礎基本は理解できていると考えられます。課題としてきた反比例の問題の通過率は 96.2%と改善がみられますが、グラフ上を通る点を答える問題の通過率がやや低いように思います。

新傾向の問題であった「図形・関数・資料の活用」の通過率が 76.9%で、他の分野と比べると、やや低いように思います。いくつかの単元を組み合わせた問題の通過率が少し低くなっています。

【今後の取組】

- ・ 単元ごとに確認テストを実施し、基礎・基本が定着していない内容を重点的に演習していきます。
- ・ 継続的なドリル学習を行い、計算技能の定着を目指していきます。
- ・ 基礎・基本の定着にとどまることなく、いくつかの単元を組み合わせた問題にも取り組み、数学的な思考力、判断力などの育成を図っていきます。
- ・ 図形の学習では、モデルを用いるなどして、視覚的に図形をとらえることができるように授業を工夫していきます。

理 科

【分析】

「生物分野」では、通過率が 78.5%で、基本的な道具の使い方、実験の仕方は身につけていると思われます。実験結果から考察するところが低い通過率になっているので、このような問題演習や実践を繰り返していきます。

「化学分野」では、通過率が 72.1%で、基本的な知識は身につけていると思われます。今後も実験から考察させ、内容を深めていく指導を行っていきます。

「物理分野」では、通過率が 65.4%と、県の通過率の約2倍となっているが、おおむね知識は定着していると考えられます。今後も演習や実験を取り入れ、さらなる向上を目指します。

「地学分野」では、通過率が 37.2%であり、低い値となっています。今後は、授業での取り組みとして、実験・観察をより多く取り組み、また演習やテストを通して、知識の定着を図っていきたいと思います。

【今後の取組】

- ・ 実験や観察では、ただ行うのではなく、先に仮説を立てさせ、それに伴って実践させるなど、工夫を取り入れていきたいと思います。
- ・ 定期的な確認テストや単元テストを行い、知識の定着を目指していきます。
- ・ ICTや様々な演習を通して、視覚的に理解できるように授業を工夫していきます。

【分析】

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3つの領域では、いずれも92%以上の高い通過率になっています。広島県の平均通過率と比較しても「書くこと」の領域では25%以上、「聞くこと」、「読むこと」の2領域では15%以上の高い通過率でした。

授業の中で、イントネーション、抑揚、強弱などを意識させての本文の音読、本文の概要を考えながら本文を全文暗誦する取り組みを入学時より重視し継続的に行っていることが、「内容を考えた音読」や「適切な語を用いた会話文の組み立て」の高い通過率に繋がっていると思われます。

一方、「話すこと」の領域は87.2%で、やや低い通過率となっています。特に、「自分の考えを正しく伝えるように話すこと」の3つの問題のうちの1つでは、問題カードの図中にある曜日と日付のうち、曜日を答えるべきものを、誤って日付を答える生徒が多くいたため、通過率が低くなっています。これは単純に、曜日と日付の問い方の差異が十分理解されていないことが課題であると思われます。他の2問の通過率は91%と100%であり、授業中における英問英答の活動により、適切な応答の仕方が身につけてきていると思われます。

また、「読むこと・書くこと」領域の「資料や情報をもとに、自分の考えを伝える英語の文章を書くこと」は67.9%で、他と比べて低い通過率となっています。誤答として、動詞に必要な「s」を忘れているものが多く、動詞を正しく運用する力が若干身につけていないと考えられます。

【今後の取組】

次のような取組を通して、全技能の能力を更に高めていきます。

- ・「聞くこと」では、リスニング問題での概要や、要点の把握に課題があります。授業の中で継続して聞き取り課題に取り組んだり、少し長い文を聴くことを取り入れたりします。
- ・「話すこと」では、学校設定教科のコミュニケーション英語の時間を中心に、ALTと個別の英問英答をする機会を更に増やします。
- ・「書くこと」では、毎週実施している単語・英文テストを継続します。同時に、スピーチの原稿づくりや英文日記の課題も増やし、文を書くことに慣れ親しむように指導していきます。
- ・「読むこと」では、話の流れを把握して文章を理解するために必要な代名詞の用法について、読解演習を授業や課題に取り入れます。また、つまずきの見られた動詞の運用について、正しくできるように機会を捉えて問題演習に取り組みさせます。